

アイモビークによる治療を受けられる方へ

監修：獨協医科大学 副学長 平田 幸一 先生



はじめに

片頭痛は、**はっきりした原因がなく繰り返し起こる頭痛**で、俗にいう「頭痛もちの頭痛」です。

片頭痛は器質性すなわち何らかの病気に由来するものではありませんが、その機能障害による痛みのせいで患者さんの**日常生活に影響を及ぼすことが多くあり**、74%の患者さんは片頭痛により日常生活に中等度以上の支障をきたしているという報告があります¹⁾。

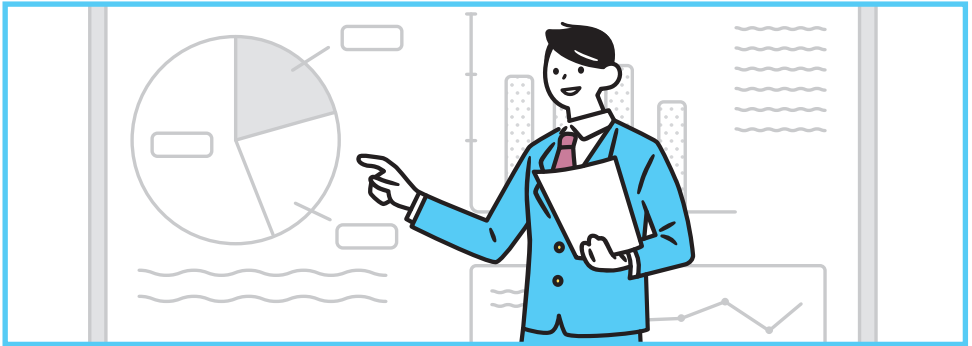
ですから、たかが頭痛と考えるのではなく、**疾患としてしっかりと治療することが重要**です。

アイモビーグは、4週間に1回の投与で片頭痛発作の発症抑制を目指すお薬です。つらい痛みの回数が減ったり、痛みが軽くなることで、日常生活への影響も抑えることが期待できます。

この冊子は、**アイモビーグによる治療を受ける患者さん**に知っておいていただきたい情報をまとめたものです。アイモビーグの効果や副作用を理解するために、ぜひご活用ください。

わからないことや不安なことがあったら、遠慮せずに主治医や看護師、薬剤師にご相談ください。

1) Sakai F, et al. Cephalalgia 1997;17:15-22



片頭痛とは？

はっきりした原因がなく繰り返し起こる頭痛です。

頭の片側(時に両側)にズキンズキンと脈を打つような痛みがあります。
光や音を煩わしく感じたり、吐き気を伴うことが多くあります。

1 前兆*のない片頭痛



頭痛発作の
直前に前兆がない

2 前兆のある片頭痛



頭痛発作の
60分前～直前に
前兆がある

3 慢性片頭痛



頭痛が
月に15日以上
の頻度で
3カ月を超える

※ 頭痛発作の前兆として起こる症状(例)

視覚症状：キラキラした光・点・線が見える／視野の一部が見えなくなる(暗点)

感覚症状：体にチクチク感が広がる／感覚が鈍くなる

言語症状：一時的に言葉がうまく話せなくなる

患者さんはどのくらいいるの？

日本人の8.4%が片頭痛患者さんです。

日本人の**8.4%**が片頭痛に悩まされているといわれています。

患者さんの数は**男性に比べて女性で3.6倍多く**、
20代女性で約13%、30代女性で約20%、40代女性で約18%と、
特に**20～40代の女性で多い**ことが知られています。



男性

1

:



女性

3.6

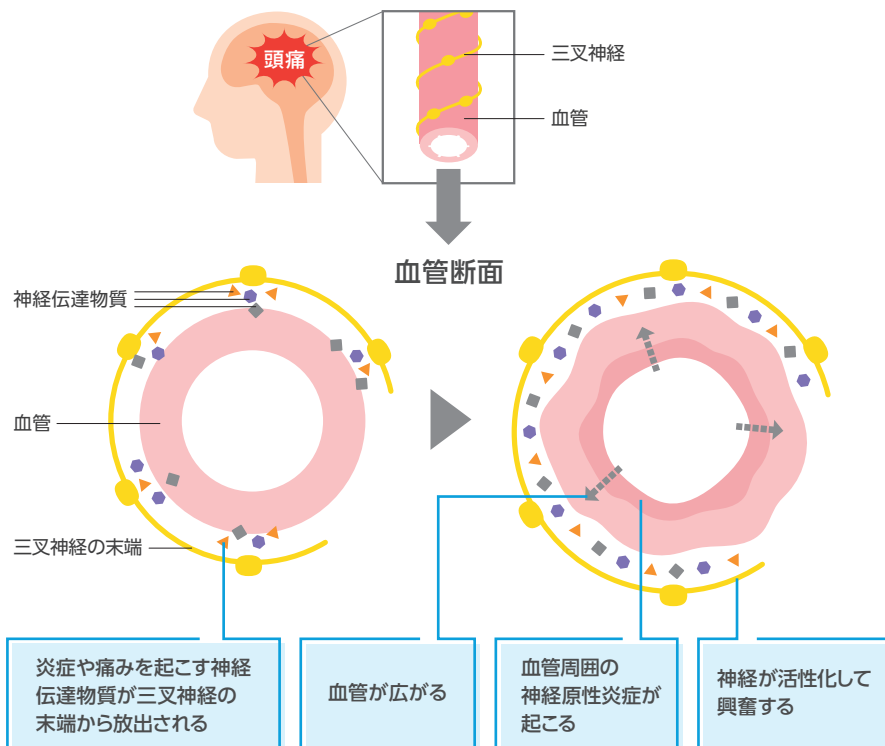
Sakai F, et al. Cephalalgia 1997;17:15-22

片頭痛はどうして起こるの？

片頭痛には「CGRP」が関与しているといわれています。

片頭痛の原因はまだはっきりとはわかっていませんが、**カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)**などの神経伝達物質が、片頭痛発作の痛みに関与していることが示されています。

● 片頭痛が起こるしくみ



片頭痛発作への関与が示されている主な神経伝達物質

- CGRP
- PACAP38
- サブスタンスP
- ニューロキニンA など

PACAP：下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ポリペプチド

「頭痛の診療ガイドライン」作成委員会編集、日本神経学会・日本頭痛学会・日本神経治療学会監修、頭痛の診療ガイドライン2021、pp.93-97、医学書院、2021 を参考に作成

治療方法は？

片頭痛の治療は、急性期治療と予防治療があります。

1 急性期治療

痛みが起こったときに痛みを抑える。
片頭痛発作を確実に速やかに消失させることにより、日常生活への支障を減らすことを目指す。

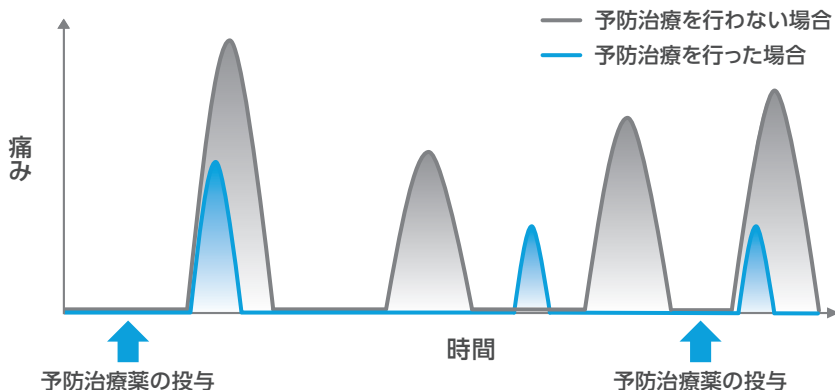
2 予防治療

痛みが起こるのを前もって抑える。
頭痛の回数が多い方や、生活への支障度が高い方には、予防治療で片頭痛をコントロールすることが勧められる。

〔頭痛の診療ガイドライン〕作成委員会編集，日本神経学会・日本頭痛学会・日本神経治療学会監修，頭痛の診療ガイドライン2021，pp.134-140，194-196，医学書院，2021 を参考に作成

予防治療により、片頭痛発作の回数と痛みの強さに変化をもたらします。

● 予防治療による痛みの変化のイメージ



〔頭痛の診療ガイドライン〕作成委員会編集，日本神経学会・日本頭痛学会・日本神経治療学会監修，頭痛の診療ガイドライン2021，pp.194-196，医学書院，2021 を参考に作成

アイモビーグってどんなお薬？

アイモビーグはCGRPの働きを抑えます。

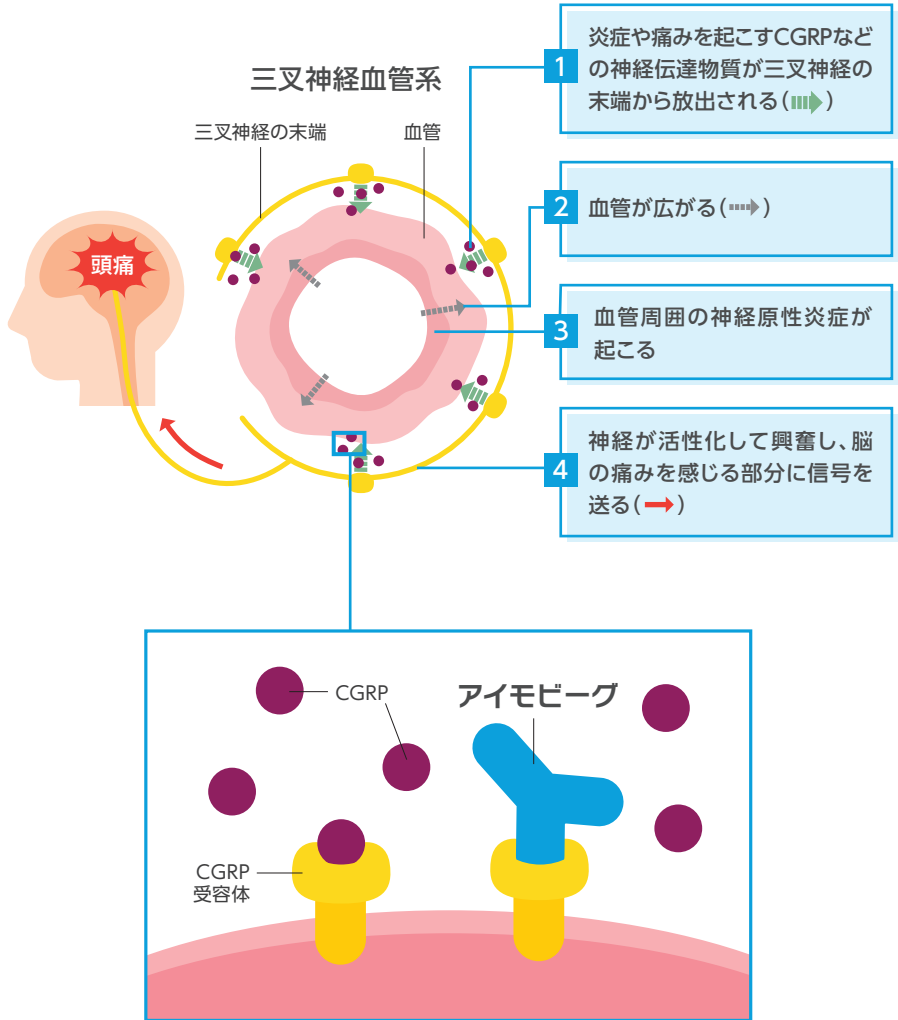
CGRPは「神経伝達物質」の一つで、脳の神経（三叉神経）などの末端から放出されます。それを受け取る側の血管や神経の末端などには、CGRP受容体といって、放出されたCGRPをくっつけるような受け皿があります。この**受け皿にCGRPが結合すると炎症や痛みが引き起こされます**。この痛みが、片頭痛の痛みになると考えられています。

アイモビーグは、CGRPの代わりに受容体に結合することで**CGRPの働きを抑え、炎症や痛みの発生を抑制**します。

また、アイモビーグは**生物が作り出すたんぱく質を利用して製造**されています。このようなお薬を**生物学的製剤**といいます。



● アイモビーグの働き



竹島多賀夫 編著, 頭痛治療薬の考え方, 使い方 改訂2版, 中外医学社, 2016, Russell FA, et al. *Physiol Rev* 2014;94:1099-1142を参考に作成

アイモビーグで期待される効果

片頭痛発作の発症を抑制する効果が期待できます。

アイモビーグは**ヒト抗CGRP受容体モノクローナル抗体製剤**と呼ばれるお薬です。アイモビーグがCGRP受容体に結合することでCGRPの働きを抑えます。

このお薬で、**片頭痛発作の発症を抑制する効果**が期待できます。



アイモビーグの適応となる患者さん、 投与できない患者さんなど

アイモビーグは、以下の方に使用できます。

● 片頭痛の患者さん

- 前兆の有無にかかわらず、片頭痛の発作が月に複数回以上発現しているか、慢性片頭痛である患者さんが投与対象です。
- 最新のガイドライン等を参考に、非薬物療法、片頭痛発作の急性期治療等を適切に行っても日常生活に支障をきたしている患者さんに投与します。

アイモビーグは、以下の方には使用できません。

● 過去にアイモビーグに含まれる成分で過敏症のあった人

以下の方は特に注意が必要です。
使い始める前に主治医や看護師、薬剤師に相談しましょう。

- 妊婦または妊娠している可能性のある人
- 授乳中の人

アイモビーグの投与間隔

4週間に1回、皮下投与します。

- アイモビーグは**オートインジェクター**というペン型の注射薬で、27ゲージという**外径0.4mm**ほどの注射針で投与します。また、注射針は安全カバーで覆われており、**投与の際に針先が見えない構造**になっています。

アイモビーグ皮下注70mgペン



- アイモビーグは、**4週間に1回**の間隔で、**1回1本**を投与します。
- **投与予定日に投与できなかった場合は**、可能な限り速やかに投与を行い、以降はその投与日を起点として4週間に1回の間隔で投与を行います。そのため、予定どおりに投与ができなくなった場合には、**必ず主治医に連絡してください** (p.16、Q3参照)。
- また、**途中で治療を中断した場合も**、**1回1本の投与で再開し**、4週間に1回の間隔で投与を行います。



アイモビーグの投与方法

1 医療機関で投与してもらう場合

医療機関で**医師や看護師**にアイモビーグを投与してもらいます。通院の際は、以下のことに気をつけましょう。

- なるべく4週間に1回の間隔になるように受診する。
- 自己判断で通院間隔を縮めたり、のばしたりしない。

2 自分で投与する場合

患者さんご自身で投与(自己投与)することができます。

- 自己投与をご希望の方は、主治医にご相談ください。
- はじめて自己投与される方は、**必ず医師などから、適切な指導を受けてください。**

- ご注意**
- 投与予定日に体調不良の際は、事前に主治医に相談してください。
 - 治療を中止したい場合は、自己判断せず、必ず主治医に相談してください(p.16、Q1参照)。

アイモビーグによる治療中にご注意いただきたい副作用

アイモビーグによる治療中には、過敏症反応、便秘、注射部位反応、傾眠などの副作用があらわれることがあります。

これらの症状があらわれた場合は、主治医に連絡して相談してください。

重大な副作用

● 重篤な過敏症反応(発疹、血管浮腫、アナフィラキシー)

医薬品の投与により、以下のような症状があらわれることがあります。

- 寒気、ふらつき、汗をかく、発熱
- 意識の低下
- 唇・まぶた・舌・口の中・顔・首が急に腫れる
- 喉がつまる感じ、声が出にくい、喉のかゆみ、口唇周囲の腫れ
- 息苦しい、動悸
- 発疹、全身のかゆみ、かゆみ、じんま疹

● 重篤な便秘

腸閉塞や腸に便の塊ができるなどの重篤な合併症を伴う便秘が起こることがあり、以下のような症状があらわれることがあります。

- 吐き気、嘔吐
- お腹が張る、腹痛
- 便秘が回復しないまたは悪化する

このような便秘の多くは、アイモビーグの初回投与後にあらわれています。

その他の副作用

アイモビーグの国内臨床試験※において、よくみられた副作用（発現頻度1%以上）は、注射部位反応（2.9%）、便秘（1.9%）、傾眠（1.1%）です。

※アイモビーグ70mgを投与した片頭痛患者さんにおける安全性の結果

● 注射部位反応

注射部位に、以下のような症状があらわれることがあります。

- 赤み
- かゆみ
- 痛み
- 腫れ

● 便秘

便秘の症状があらわれ、症状が回復しない、または悪化する場合には主治医に連絡して相談してください。

● 傾眠

投与後に眠くなることがあります。

車の運転や機械の操作、高所での作業などを行う場合は十分注意してください。

よくある質問

アイモビーグについて、よくある質問と回答をご紹介します。

Q1

アイモビーグの治療を中止するのは
どんなときですか？

A1

投与開始後**3カ月**を目安に治療の効果を評価し、**症状の改善が認められない場合**には中止が検討されます。

また、片頭痛発作が起きなくなったり、発作の回数が減ったりして、**日常生活に支障をきたさなくなった場合**にも、主治医の判断により治療が中止されることがあります。

Q2

アイモビーグの効果は
どのくらいであられるのでしょうか？

A2

効果が出るまでの期間には、**個人差**があります。十分な効果が得られるように、主治医の指示に従い、間隔を守って投与するようにしましょう。

Q3

予定日に、投与ができなくなりました
(投与を忘れてしまいました)。

A3

アイモビーグは、**4週間に1回の投与**で効果を発揮するお薬です。投与の間隔がそれ以上空くと十分な効果が得られない可能性があるため、**自己判断で投与間隔を空けることはしないでください**。予定どおりに投与ができなくなった場合には、**必ず主治医に連絡**してください。

Q4

体調不良のときに投与をしても大丈夫でしょうか？

A4

体調不良の内容を**主治医に相談**して、指示に従ってください。

Q5

投与した当日は、入浴できますか？

A5

入浴はできますが、ボディタオルなどでゴシゴシこすったりして**投与した部位を刺激しない**ように気をつけましょう。

Q6

投与した当日は、飲酒や激しい運動は避けたほうがよいですか？

A6

体調に変化をきたすような行動は控えてください。仕事などやむを得ない事情がある場合は、主治医に相談しましょう。



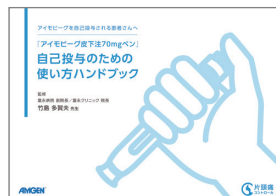
サポートツール

アイモビーグで治療中の患者さんのために、いろいろなサポートツールをご用意しています。

自己投与のサポートツール

自己投与のための 使い方ハンドブック

アイモビーグの自己投与の方法を、イラストでわかりやすく解説しています。



自己投与のためのビデオガイド

アイモビーグの自己投与の方法を、動画でわかりやすく解説しています。



アイモビーグ.jp (患者さん向け)

<https://aimovig-pts.jp/about/self-injection>



小冊子

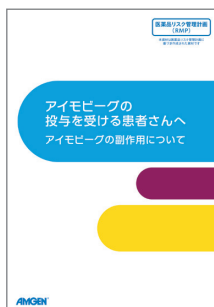
片頭痛の患者さんへ 頭痛ダイアリー

症状や治療について記録し、主治医にも記録を渡して情報を共有することができます。



アイモビーグの 投与を受ける患者さんへ アイモビーグの副作用について

アイモビーグによる治療中にご注意いただきたい副作用について解説しています。



LINEコンテンツ

LINE公式アカウント

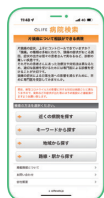
片頭痛@LINE ヘルスケア

アカウントID: @002zivqi



アイモビーク 患者さんサポート

アカウントID: @631wjhnw



片頭痛の患者さん向けに、LINE®上でご利用いただける頭痛ダイアリー、病院検索などのコンテンツをご用意しています。

コンテンツ監修：一般社団法人 日本頭痛学会
公式アカウント運用：LINEヘルスケア株式会社
コンテンツ提供：LINEヘルスケア株式会社、
アムジェン株式会社

[LINE]および[LINヘルスケア]はLINE株式会社の登録商標です。

LINE®上でご利用いただける頭痛ダイアリー、通院リマインダー、自己投与リマインダーなどの機能があります。

提供：アムジェン株式会社
運営：株式会社QLife

ウェブサイト

片頭痛 コントロール



<https://henzutsu.net/>



片頭痛の患者さん向けに、片頭痛の情報、生活のコツ、患者さんの体験談などをご紹介します。

アイモビーク.jp

アイモビークによる
治療を受ける
患者さん向け情報サイト



<https://aimovig-pts.jp/>



アイモビークは、片頭痛発作の発症を抑制する効果が期待できるお薬です。

アイモビークで治療中の患者さん向けに、片頭痛やアイモビークによる治療について解説しています。

症状、使用方法、副作用など、より詳しいご質問がある場合は、
主治医、薬剤師または看護師にご相談ください。

医療機関名／連絡先



アマジェン株式会社